

3.1.10 西田結集型特別グループ

中期計画期間全体	目 標
	情報ネットワークが社会生活に与える影響を、社会心理学・認知心理学・情報科学の視点から総合的にモデル化し、社会生活を支援する知的インタラクションシステムの基礎を確立する。
	目標を達成するための内容と方法 コミュニティコミュニケーションを支援するための会話型放送システム「Public Opinion Channel (POC)」のデザイン、実装、評価をグループの共通目標と定め、メンバーの専門性を結集して新しい学際的な研究領域の創出を図る。また、POCを実用化して、産業・ビジネスに役立てるとともに更なる発展の基盤とする。
特 徴	
	POCは世界でも比類のないコミュニティ支援システムであり、地域コミュニティ支援、e-learning、ナレッジマネジメントなどをはじめとして実用面でのインパクトが大きい。学術面では、POCを核として情報通信工学と、認知・社会心理学が結びつき、新しい研究領域 (Social Intelligence Design) を創出した。

今年度の計画及び報告	今年度の計画
	POCの実証実験を行い、情報の湿潤モデル、少数者影響、情報発信・情報獲得尺度などに関するデータ収集と知見の取りまとめを行う。また、会話に満ちた環境とアクティブアフォードンスという概念に基づく身体コミュニケーションの方式を確立し、実用化の基盤とする。
	今年度の成果

平成14年度の最大の成果は、KDDI社FTTHトライアルを中心にPOCの本格的実証実験を行い、POCシステム実用化と実証実験運用手法の確立に基づく社会知デザインの研究分野における実証的基礎研究の手法を確立したことである。POCという共通課題に対して社会心理学・認知心理学・情報通信技術からの取組を集中することにより、社会心理学・認知心理学・情報通信技術の研究者の間の密接な連携が生まれ、ネットワーク上でコンフリクトが生ずるメカニズムを予測するための情報湿潤モデル、定性的評価と定量的評価を組み合わせたコミュニケーションツール評価手法など、情報システムのデザイン・評価手法にかかわる非常にユニークな研究成果が得られるとともに、システムの実用化や実証実験にかかわる様々なノウハウが得られた。学際研究は、POCと並行して研究開発を進めた、情報個人化・分身エージェント・会話に満ちた環境・身体性と状況性に基づくコミュニティコミュニケーションシステムなどへも大きなインパクトを与えた。成果の全体像を図1に、また、今年度改良したPOCのポータル画面のスナップショットを図2に示す。



図1 研究成果の全体像

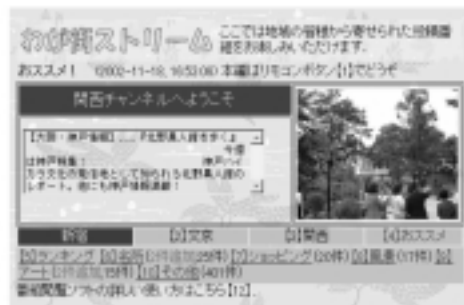


図2 本年度開発したPOCポータル画面のスナップショット